2021年度　子ども第三の居場所　完了報告書

報告日付：2022年3月31日
事業ID：2020557724
事業名：「子どもの第三の居場所」への助成・運営支援
団体名：特定非営利活動法人にっこりひろば
代表者名：岡宮　真理

1.事業内容：
　にっこりひろばの運営
（１）日時：2021年4月1日～
（２）場所：長野県長野市三本柳
（３）内容：

①居場所の提供　（対象限定せず）
〇毎週１回、月曜日～金曜日（不定期）
　9時～10時（朝の居場所）利用者：1名
〇毎週火曜日～金曜日
　10時～12時（日中の居場所）利用者：2～10名
　15時～17時（放課後の居場所）利用者：2～20名
〇毎週水曜日
　17～20時（夜の居場所）利用者：４～７名／登録＝６家庭、9名
〇毎週金曜日
　17時～20時（夜の居場所）利用者：約10～20名
　※2020年11月より現在まで19時終了、お弁当対応
〇あっとすくーるの実施（三本柳小学校との協働）
　夏休みに３日間実施、学習支援と食事支援含む
　各回平均約95名

②学習支援の提供（小学生、中学生）
〇居場所の提供の時間に学習支援も兼ねている
　夜の居場所の時は食事前後の30分ほどを「べんきょうの時間」としている

③生活習慣の形成支援等（小学生）
放課後の居場所で週４回、夜の居場所として週２回（目標達成）
毎回10名～20名

④生活困窮世帯とその子どもに対する相談支援等
〇にっこりひろばのオープン時間とLINE公式アカウントで相談を受付
〇個別相談
　9～10時、13～15時、土日等、必要に応じる
〇こそだて支援として講座や茶話会相談日を毎週月曜日実施

　参加者：毎回１～8名
〇フードパントリーの実施（月１回）
　毎回60家庭ほどの利用
〇必要な家庭への食支援
　2022年2月現在２件対応中（週１～２回程度）、待機（いつでも渡せるよう準備）２件あり

⑤乙の外部関係機関・団体・個人との連携・調整
日中の居場所・夜の居場所　　長野市こどもにやさしまちフォーラム（5名）
学習支援・放課後の居場所（月２回）　　NPO法人ITサポート銀のかささぎ（2名）
他、JAグリーン長野、長野県各関係機関、長野市各関係機関、地域住民、長野保健医療大学、長野県立大学、清泉女学院短期大学、篠ノ井高校、長野文化学園、三本柳小学校、川中島地区各関係機関、更北地区各関係機関、長野地域こどもカフェプラットフォーム、信州こども食堂ネットワーク、長野市協働サポートセンターまんまる、（株）みすずコーポレーション、（株）マツワ食品など

⑥前各号に掲げるもののほか、子どもの貧困対策全般に関すること

⑦自立するための自主事業（弁当、惣菜販売）
〇お惣菜販売：毎週水曜日（午前・午後の２回）
〇こども弁当販売：毎週金曜日夕方、長期休み、分散登校期間
〇ドライカレー弁当：注文による、月１回県庁地下ホールにて販売

2.事業内容詳細：
資料１「３年間の総括」参照

3.契約時事業目標の達成状況：
【助成契約書記載の目標】
①居場所の提供　（対象限定せず）
2022年目標＝週5回（放課後２時間）20名

②学習支援の提供（小学生、中学生）
2022年目標＝週2回（放課後２時間）20名

③生活習慣の形成支援等（小学生）
食事支援2022年目標＝放課後週2回、昼食月3回、夕食月3回　20名

④生活困窮世帯とその子どもに対する相談支援等
こそだて支援2022年目標＝月1回　6名
不登校支援2022年目標＝月4回

⑤乙の外部関係機関・団体・個人との連携・調整

⑥前各号に掲げるもののほか、子どもの貧困対策全般に関すること

⑦自立するための自主事業（弁当、惣菜販売）

【目標の達成状況】
①居場所の提供　（対象限定せず）
週４回実施できている（目標達成）
毎回10名～20名
小学校の行事に合わせて週５回実施する月もある
水曜日を「長野市トワイライトステイ事業」追加　8月現在４家庭の利用あり

②学習支援の提供
現在週４回学習支援を行えている（目標達成）
毎回10名ほど
非公開で朝の時間に、学校に行かない子が学習する支援体制ができた（登校扱い）

③生活習慣の形成支援等（小学生）
放課後の居場所で週４回、夜の居場所として週２回（目標達成）
毎回10名～20名

④生活困窮世帯とその子どもに対する相談支援等
こそだて相談（目標達成）
→　講座や茶話会など月２～４回実施、その他時間をとって相談も行なっている
不登校支援
学校に行かない、早退する選択をした児童が日中利用することもある
安心安全な受入れ体制をより強化していきたい

⑤乙の外部関係機関・団体・個人との連携・調整
団体との連携は、前年度同様行えている（目標達成）
○「民間施設・団体と中間教室適応指導員及び長野市教育員会事務局との情報交換会」の出席
○長野市トワイライトステイ・ショートステイ委託施設の懇談会への出席
○三本柳小学校と児童の支援方法の共有
○SSWの先生方との連携
○長野県立大学「令和３年度子育て支援実務担当者協議会」出席

⑥前各号に掲げるもののほか、子どもの貧困対策全般に関すること

⑦自立するための自主事業（弁当、惣菜販売）
　売上としてはもう少し欲しいところ
　販路拡大の課題は続いている

4. 事業実施によって得られた成果：
資料１「３年間の総括」参照

5. 成功したこととその要因：
関わってくださるみなさんが応援してくださったこと、それにスタッフが応えようと自ら考えて行動したこと。感謝しかない

6. 失敗したこととその要因：

毎回同じことで申し訳ないのだが、広報力が弱い＝資金調達能力が弱いと考えている
もう少しスタッフ間で担当を割り振りできたらとも思う

7. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案：
会計業務、相談業務、広報業務、自主事業業務、食材の在庫管理をもう少しスタッフ間で割り振りできたらよいと思う
助成金に頼らず運営できる体制づくりをどうするか、役員で話し合う回数を増やしたい

ワークショップも復活。こどもマネー講座「世界のお金を学ぶ日

背よりも高くパイプを繋げられることに成功！
記念写真📷

彩りのきれいな「こども弁当」

利用者数　　2021年

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
	開館日数	**16**	**15**	**19**	**20**	**17**	**21**	108
	1日平均	**17.1**	**17.1**	**20.5**	**17.9**	**16.8**	**17.6**	17.9
利用者	未就学児	41	30	45	50	60	57	283
	小学生	130	155	237	229	145	227	123
	中学生	16	4	28	10	2	8	68
	高校生	2						2
	その他（大人）	84	68	80	69	79	79	459
	合計	273	257	390	358	286	371	1935

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	開館日数	19	18	21	18	18	17	111
	1日平均	22	21	24	11	6.6	12.7	16.8
利用者	未就学児	65	62	78	50	19	40	314
	小学生	264	214	301	103	37	89	1008
	中学生	2	1	5	1	3	9	21
	高校生		8	6	1	1	1	17
	その他（大人）	87	101	123	56	60	77	504
	合計	418	386	513	211	120	216	1864

＊ボランティアスタッフ・運営スタッフ・外部講師は記載せず
＊お惣菜販売、マルシェ、フードパントリーの人数は記載せず
＊8月4日～6日の「あっとすくーる」参加者数（昨年度の２倍）
　4日　108名　　5日　98名　　6日　98名

2021年度 子ども第三の居場所　完了報告書

報告日付：2022年３月31日
事業ID：2020557724
事業名：「子どもの第三の居場所」への助成・運営支援
団体名：特定非営利活動法人まちの縁側なから
代表者名：　齋藤　百合子

1.事業内容
①　学習支援
②　生活支援
③　食事支援

2.契約時事業目標の進捗状況：
【助成契約書記載の目標】
①　学習支援
　１、科目別6人以内＋学習室20人以内（7歳～18歳）
　２、土曜日を中心に高校生ボランティアによる学習支援
　３、学ぶ楽しみ、分かる喜びに添う支援
②　生活支援
　１、ソーシャルワーク（相談支援）
　２、調理、片付け、洗濯等家事の学び
　３、食事マナー等周りの人たちと心地よい関係を築くための付き添い
③　食事支援
　１、隔週土曜日：調理も一緒に
　２、平日は食事提供

【目標の進捗状況】
①　学習支援の進捗状況
　1、計画を実行することが出来ず
　2, コロナ禍により上田高校ボランティア班からは休止になっているが、佐久長聖高校や教員志望の大学生が平日も来てくれるようになった。また、同級生や上級生の支援も自発的に行われるようになった。
　3, 一切勉強する気の無かった子が1時間集中して勉強するようになった。また、こども食堂の時には勉強しようとしないが、学校では積極的に学習に取り込めるようになったとの報告が本人・学校・保護者からあり。
　みんなで畑作は5月に1回実施のみ。

【高校生・大学生ボランティアによる学習支援】　　【楽しみながら文章能力を養うゲーム】

② 生活支援の進捗状況

1, 相談支援

現在小学生3人・中学生3人・成人1人　それぞれ月1～2回の家族支援と本人のみと週1回（2人）

3ヵ月に1回相談支援勉強会開催。

保護者同士の情報交換の場も持つことに寄り、安心や学び合いの場も提供出来た。

最初に始めた子は学校でもすっかり落ち着いた。本人の希望により服薬も昨年4月より中止した。初期の主訴が「僕は学校にいじめられに行っているようなもんだ。」であった子が、友達と仲良く遊べるようになり、「学校が楽しい。」と言うようになった。

怒りが頂点に達すると言葉が出なくなり意識もはっきりしなくなった子が、何が不快かを言葉で表現出来るようになり、怒りの発作も無くなった。

御代田町社会福祉協議会・学校・町教育委員会との連携が進み、子ども達に細やかな支援が出来るようになった。例えば、学校帰りに意地悪をしてしまった、或いは怪我をさせてしまった等は2家族で話し合いの場をもつ、学校に連絡し情報共有する等を行い解決した。

第4回相談支援勉強会には茂木教育長と岡本心理士に、町の取組となからとの連携をお話し頂いた。

2, 調理を積極的に手伝いたい日と遊びの方を優先したい日があるが、子ども達の気持ちを尊重。積極的に手伝う子は上達も早い。洗濯機を使ってもらう機会は無いが、食事後の床拭き雑巾の手洗いをしてもらっている。

3, 食事の盛り付けはバイキング形式にしているが、子ども達は自分の食べられる量を見極め、食べ残しが無くなってきた。食事運びや片付けも協力し合う様子も見られる。

畳の上で正座して食べられない子もいるが優しい言葉かけでおおらかに見守っている。

③ 食事支援の進捗状況

1, 第1・3・5土曜日開催。日常の調理の他に地域の伝統食（そば打ちなど）・スペイン料理なども教わり、子ども達は興味津々で参加し、「美味しい。」と言いながら食べた。

【そば打ちを習っている様子】

第1土曜日にはりんごっこ保健室の保健師さんに「からだ探検隊」という名の性教育をして頂いている。毎回子ども達は目を輝かせて参加している。

卑猥な言動を繰り返していた子が、生と性の正しい知識を学ぶ内に自己肯定感を高め、周りへの配慮が出来るようになり、周りに不快感を与えることが無くなった。

2,（月）（水）は公開したこども食堂。（火）（木）（金）は静かな環境を必要とする子どものためのこども食堂としている。

掃除・賄い担当者もその日の子ども達の様子から、一人ひとりの子どもに配慮して良い関係を保ってくれており、子ども達からの信頼感も大きい。

こども食堂で使い切れない野菜等は参加者にお持ち帰り頂いたり、ご近所も含めお世話になっている方にお配りしたりしている。

沢山頂いたお米は麹にしたり、寄付を頂いた方の返礼に使ったりしている。

【食糧支援で宮城県から届いたお米】

【学用品リユース・フードパントリーに寄せられた物資】

3，事業実施によって得られた成果

①学習支援・・・宿題さえやらなかった小学生が1時間集中して勉強するようになった。また、子ども同士の支え合いが増えた。

コロナ緊急支援助成を紹介して頂き、完全に独立した静かな学習室（プレハブ）を作ることが出来た。

②生活支援・・・相談支援、からだ探検隊、掃除・賄い担当者等子ども達と直接関わる人達から、或いは子ども同士で互いに影響し合い、自ら学んでいる様子が見られる。コロナの影響もあり、家族数が限定されたためか、一つの家族の様な親密で落ち着いた雰囲気が生まれた。

コロナ緊急支援助成で同時に（昨年12月より）学用品リユースとフードパントリーを本格化させることが出来、これまで繋がりのなかったより多くの人たちと繋がりを持つことが出来た。経済的に困難を抱える家庭とも繋がれたように思える。

「ちょっくら（障がいのある子どもと地域の人達を近しくすることと、就労支援を兼ねた取り組み）」を外部団体とし連携することで大きく進展し、子ども達が実際に学ぶ場を得られた。

③食事支援・・・より多くの人たちと繋がりが出来、沢山の食材を頂くことが出来た。そしてその一部を配布したりお礼に使ったりすることが出来た。

子ども達には好きなだけ食べてもらうことが出来た。

調理担当者は料理上手なだけでなく、子ども達に信頼され、時には悩み相談等子どもに寄り添いにも大きな力を発揮してくれた。

4. 成功したこととその要因

こども食堂を開く以前からの繋がりがあったこと。開いてからの新たな繋がりが自然体にとけあったこと。

スタッフや周りで応援して下さる方達に志が高い温かい方が多いこと。

地域の民生委員さんにも具体的にお願いし協力が得られたこと。

もともと社協と連携が組めていたところに、学校、教育委員会と具体的に連携が組めたこと。町の協力が得られたこと。

コロナ禍により参加人数が限定されたこと。
衛生面には気を付けながら、コロナ禍でも平常通り開催し続けられたこと。
より広くなからの存在とその役割を知って頂くことが出来（東信教育事務所に県議会議員の研修会に選んで頂いたこともあり）、新年度には佐久大学看護学部の（地域者交流実習）実習先として指定して頂いた。「地域の様々な人が混じって過ごすことで、一人ひとりが互いに学び合いより逞しく、生活しやすくなるのでは。」との考えを支持して頂いたとものと思う。

5. 失敗したこととその要因

教室単位の学習室が開けなかった。新たに引き継げる人材を確保できなかったことによる。
日本語教室に子どもをつなげることが出来なかった。広報に日本語しか使わなかったことと十分に力を注げなかったことによる。
食べ物の大切さと生産の喜びを味わうための「みんなで畑作」は１回しかひらくことが出来なかった。代表者の力不足により時間と労力を注ぐことが出来なかった。
併設する学習塾の子ども達に静寂を確保してやれない時間が多くなってしまったこと。こども食堂と同じ空間であり、こども食堂優先の雰囲気が生まれたこと、こども食堂を応援して下さる方が来所した時に、その方達への気遣いの方が大きかったこと。

6. 活動を通じて明らかになった課題と対応案

この３年間で最も大きく作用したのが相談支援と考える。御代田町が不登校児や障がい児に力を注ぎ始めた時期とも重なり、これまでにない学校との連携が生まれ、苦しんでいる子どもとその家族が問題解決に進めるような環境が整って着たこと。
なからと繋がっていなかった不登校等の子ども達を紹介して頂くようになった。紹介者と共に、当事者の問題解決に向かう場に立ち会うことが増えてきた。
発達障害・精神障害を抱えた子どもや大人が「ここなら落ち着ける。」と居場所としての活用してもらえた。
問題を抱えた人たちの利用頻度が増しているが、これまでの無料から有料への切り替え、また料金設定が難しい。
オミクロン株が蔓延してから利用者は更に減ったが、これについてはスタッフ一同楽観的に見ている。また、みらい基金に設定して頂いた「マンスリーサポート」へのお願いをする中で、更に多くの個人や団体と繋がることが出来た。具体的に応援して下さる方達も増えている。これからもっと応援者の数を増やして、安定して運営していけるようお願いを続けていく。

2021年　利用状況

		４月	５月	６月	７月	８月	９月
	開館日数	**23**	**22**	**23**	**22**	**21**	**22**
	1日平均	**13**	**14**	**10**	**8**	**8**	**10**
	（実人数）						
学習支援	小学生	6	6	8	8	0	0
	（実人数）	(3)	(3)	(3)	(2)	0	0
	中学生	30	40	45	25	35	37
	（実人数）	(8)	(8)	(8)	(8)	(8)	(9)
	高校生（ボランティア）	10	14	12	12	1	0
	（実人数）	(6)	(9)	(7)	(9)	(1)	0
フリースペース	未就学児	15	18	(7)1	1	1	1
		(4)	(4)	(7)	(1)	(1)	(1)
	小学生	59	48	33	23	17	27
		(7)	(7)	(6)	(7)	(5)	(8)
	中学生	35	56	60	42	40	69
		(7)	(8)	(8)	(7)	(8)	(10)
	高校生	34	40	24	18	12	10
		(3)	(3)	(3)	(2)	(2)	(1)
	専門学校・大学	0	0	0	5	0	1
		(0)	(0)	(0)	(2)	0	(1)
	大人（ボランティア・講師・役員含む）	172	149	127	97	96	112
		(36)	(37)	(60)	(60)	(25)	(30)

合計　４月315　5月　311　６月　247　7月　181　169　219

第三の居場所　進捗報告書

事業名：みんなの居場所　ゆめひろの運営
団体名：NPO法人　末広プロジェクト
代表者名：　石城　正志

1. 事業内容

①学習支援
②食事支援
③生活支援

2. 事業内容詳細：

①　学習支援（まなび舎）
毎週１回水曜日にNPO教育支援協会長野による学習支援（1回1時間、月３回月謝3,000円）に会場を提供。ここに高校生を中心としたボランティア・スタッフを参加させ、学習支援のノーハウを学ばせる。このボランティア・スタッフを中心に水曜日以外の放課後にNPO教育支援協会長野に頼らない学習支援を週３回程度行う。また長期休業中には無料補習を行う。

②　食事支援（ゆめひろ食堂）
　毎週水曜日「まなび舎」の開催にあわせてと、さらにもう一日食事支援を行う。「まなび舎」が16:00～17:00、17:30～18:30、19:00～20:00の3枠で開講することから、17:30～19:00の間に食事を提供することとする。料金は高校生以下無料、大人は300円とする。

③　生活支援
「まなび舎」「ゆめひろ食堂」の開催にあわせてと、さらにもう一日、子どもとその保護者の相談を受ける。利用者の状況をみて「子育てサロン」等も開催する

④　遊び支援
　契約内容には含まれていないが、一昨年の３月に「ゆめひろプレイパーク」を、昨年度途中の１０月より「みんなのボードゲーム会」を開催した。その後、どちらも月１回の行事として定着しつつある。また、６月からはビブリオバトル（本の魅力を紹介し合う書評ゲーム）もあらたに月1回開催の方向で進んでおり、子ども達も関心を示している。これらは「遊び支援」として、「学習支援」と対をなす重要な活動と考えるので、報告事項に含めることとする。

3.契約時事業目標の達成状況：
【助成契約書記載の目標】
①　学習支援（まなび舎）の目標　週6回実施
②　食事支援（ゆめひろ食堂）の目標　週3回実施
③　相談支援　週3回実施
④　遊び支援　月3回実施
【目標の達成状況】
①　の達成状況…毎週水曜日夕方の「まなび舎」開催と、夏期休業中の無料補習を実施

３月に学習支援ボランティアの高校生の多くが卒業してしまい、高校生による支援の継続が危ぶまれたが、４月に諏訪圏域10高校にボランティア募集をかけたところ10名近い高校生からの申し出があった。その後、コロナ蔓延の拡大等があり、そのまま全ての高校生が支援に参加してくれているわけではないが、水曜日の学習支援については順調に推移している。
ただ、それ以外の平日放課後の小学生の利用がほとんどないため、水曜日以外の高校生による放課後宿題サポートについては実施できていない。
長期休業中の無料補習については、夏期補習を8月4日～７日に実施したところ、のべ３２名の参加者があった。また冬期補習を12月29、30日、1月2、3日に実施したところ、のべ　名の参加者があった。
さらに、水曜日放課後の学習支援とは別に、あらたに「ゆめひろ土曜寺子屋」を立ち上げた。内容としては、学校の授業の補習的な内容だけでなく、コミュニケーション能力など多様な学力の育成を目指すこととしている。9月25日に第１回目を小規模で実施したが、他の週末実施の行事との兼ね合いなどから、なかなか継続的
な実施が出来ずにいたが、逆にまん延防止等特別措置発令中の2月に、他の行事を軒並み中止せざるを得なくなったなかで、毎週開催することが出来、来年度への見通しを持つことが出来るようになった。
　また、これらとは別に、諏訪市のあゆみステーション主催の「あゆステ学習支援」の会場としての利用や、公共施設が利用できない場合の個人塾の臨時の教室としての貸し出しも行っており、結果として様々なタイプの学びが行われる居場所となりつつある。

（毎週水曜日の「まなび舎」 大人と高校生の学習ボランティアにより。ほぼマンツーマンで学ぶ）

（夏期補習　　密を避けるため2階の学習室だけでなく、1階も利用して行う）

（あらたにスタートした『ゆめひろ土曜寺子屋』の様子　少しずつ参加者も増えて来ました）

② の達成状況・・・新型コロナウィルスの影響で中断

昨年度、新型コロナの影響で中断した、毎週水曜日の「ゆめひろ食堂」は、現在も再開出来ずにいる。この間、何度か再開に向けての検討を行ったが、利用者のなかに経済的、家庭的困難に直面している子どもや、子育て家庭がほぼ居なかったことなどから、コロナ感染のリスクを冒してまで再開することに対する合意形成が出来ないでいる。

その一方で、子どもたちに外遊びの機会を提供することを目的に昨年3月にはじまり、コロナの影響で中断したものの、コロナ禍の中だからこそ実施すべきと6月に再開した「ゆめひろプレイパーク」の中で、火起こし体験、焚き火体験の延長として、鍋でジャガイモを煮たり、豚汁を作ったり、鉄板で焼き肉をしたりすることで、月に1回ではあるが食事の提供をすることとなった。これについては今年度も継続出来ている。

6月には、子ども達が外遊びをしている裏庭にピザ窯を設置し、7月にはプレイパークにあわせて、お披露目会を実施したところ常連の子どもだけでなく、あわせて50名近い家族連れや高齢者が集まり、自らトッピングした焼きたてピザをし食べながらの交流を楽しんだ。

しかし、コロナの感染拡大により8月のプレイパーク＆夏祭は中止となり、9月のプレイパーク＆秋祭も開催は出来たものの飲食の提供は行わなかった。そのため、毎週の食事提供ばかりか、月に一度のプレイパークにあわせての食事提供も中断せざるを得ない状況に陥ってしまった。

10月以降は、プレイパークにあわせた食事の提供を再開し、ピザ窯も利用して来た。その間に、地元の観光ホテルより、朝食バイキングの余食の活用について打診があり、「ゆめひろ土曜寺子屋」に参加した子どもたちへの食事提供についても検討したが、オミクロン株の蔓延により見送りとなり、プレイパークにあわせた月1回の食事提供も2月に再び中止せざるを得ない状況となった。

（ピザ窯試運転の様子）　　（こんなピザが焼けました）

（ゆめひろプレイパークでの、火起こしからはじまる調理と食事）

これとは別に、各方面からいただいた食材を無駄にしないための食材配布を開始した。4月にお試しでやってみたところ、参加者のなかに家族の食物アレルギーの問題で悩み、強い関心を抱いている方がおり、その方と相談する中で、食育や食の安全性など、参加者が食について語りあい共に考える会を定期的に開催し、それにあわせて必要な方に食材を配布するというかたちで食材配布をおこなうこととし、7月から毎月の行事としておこなうこととなった。

なお、この事業の本格実施にむけて農林水産省の「学校等・食料提供団体・食材提供団体における政府備蓄米無償交付」を申請したところ認可が下り、10月からは子ども・子育て家庭に対して政府備蓄米も配布できることとなった。

回を重ねるうちに、開始時間にあわせて地元の一人暮らしの高齢者など多くの方が参加されるようになった。そのような皆さんを排除することは出来ないが、本来のターゲットである困難を抱えた子どもや、子育て世帯に対して十分な支援が出来るよう、開催方法等を見直す必要があると考えている。

（食材配布の会の様子）

（食材配布の会の様子　つづき）　　（食を語る会の様子）

③　の達成状況…定期開催に至らず

「まなび舎」に通う子どもとその保護者を主たる対象として相談を受け、そのメンバーを核として「子育てサロン」の定期開催を考えていたが、今年度に入っても定期的な相談は行えていない。
しかし、2020年3月にはじまった、諏訪市のあゆみステーションから個別に紹介を受けた小中学生への支援は継続しており、子どもを通じて保護者との関係が構築されつつある例もある。人数としてはわずかであるが、このような関係を今後も大切にしていきたい。
現状としては、ゆめひろプレイパーク、食材配布の会に参加する親子連れには、無理のない範囲でコンタクトを取っており、そのような関係の中から自然発生的に「相談」が生まれることを期待している。
これとは別に「ゆめひろ土曜寺子屋」のなかで、サポーターと1対1で、勉強や悩み事などの相談に応ずることにしており、これが「相談」として機能することにも期待している。

④　の達成状況…月１回の行事として定着
ゆめひろの小さな裏庭を活用した外遊びの機会の提供を目的とした「ゆめひろプレイパーク」と、多世代交流を目的とした「みんなのボードゲーム会は、いずれも週末の行事として定着し、参加者も増加傾向にある。
どちらも土曜日の10時から16時まで昼食時間を挟んでの開催であることから、将来的な構想としては、毎土曜日の午前中を学習支援、昼を食事支援、午後を遊び支援とし、朝から夕方まで子どもを預かることにより子育て世代支援ともなることを考えているが、まだそこまでは至っていない。

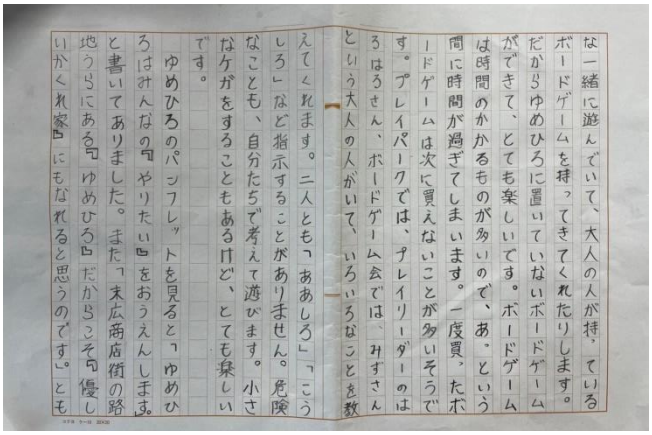
（みんなのボードゲーム会　　大人も子どもも一緒に遊びます）

これとは別にビブリオバトル（本の魅力を紹介し合う書評ゲーム）を、ゆめひろを会場に実施したいとの申し出があり、6月から共催で月１回の行事として開始したところ、大人だけでなく小学生も興味を示しており、あらたな多世代交流の機会となりつつある。

（ビブリオバトルinゆめひろ　大人も子どもも出場します）

4.事業実施によって得られた成果：
・学習支援、遊び支援に参加する小中学生、関わってくれるボランティアの高校生や大人の人数が安定して来た。
・居場所の管理に協力してくれるお当番ボランティアの人数も増加傾向にある。特にシニア大学のボランティア・グループとして参加している皆さんが、卒業後も継続して関わってくださることになっており、期待を寄せているところである。
・昨年の夏前から、ゆめひろを活用した新たな活動を提案してくれる人が増えた。具体的には、山歩き部、カイロプラクティック体験、シニア世代のための健康体操などであったが、８月を中心とした新型コロナウィルスデルタ株の蔓延により、多くの企画が単発で終わったり、実施できずに立ち消えになってしまった。その後、来年度を見通して、いくつかの企画の提案があり、ゆめひろを拠点とした活動を模索する動きは継続しており、潜在的な「居場所」のニーズの高さを感じている。現在はまたオミクロン株の蔓延で停滞してはいるが、来年度に向けてひとつでもふたつでも形にすることが出来たらと考えている。

5.成功したこととその要因：
昨年度から「ゆめひろプレイパーク」「みんなのボードゲーム会」など子どもを対象としたイベントを継続して実施して来た。コロナ禍のなか参加者は思うように増えなかったが、継続して参加している子どもに自主性が育ち、与えられる活動に参加するだけでなく、自らイベントを立ち上げようとする動きも出て来た。
　特に、残念ながら中止となってしまった沖縄交流イベントに参加する予定であった子どもたちの間には、ゆめひろを拠点とした自主活動を作り出したいという意欲が芽生えており、来年度に向けて、何とかその思いを形にするお手伝いができたらと考えている。
子どもがゆめひろでの活動をどのように捉えているかについては、児童のひとりが夏休みに書いた作文を参考に掲げておく。



みんなの居場所

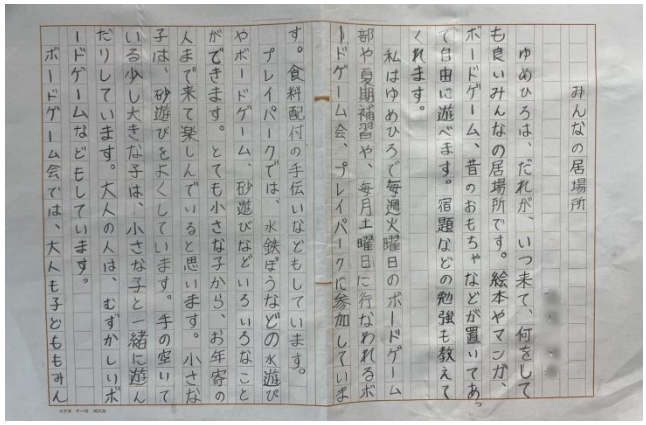
ゆめひろは、だれが、いつ来て、何をしても良いみんなの居場所です。絵本やマンガ、ボードゲーム、昔のおもちゃなどが置いてあって自由に遊べます。宿題などの勉強も教えてくれます。

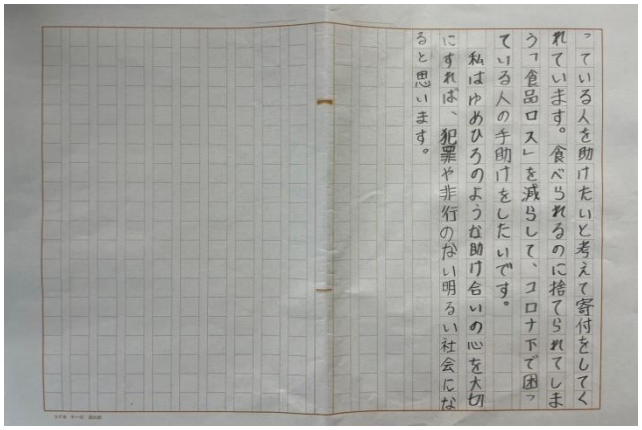
私はゆめひろで毎週火曜日のボードゲーム部や夏期補習や、毎月土曜日に行なわれるボードゲーム会、プレイパークに参加しています。食料配付の手伝いなどもしています。

プレイパークでは、水鉄ぽうなどの水遊びやボードゲーム、砂遊びなどいろいろなことができます。とても小さな子から、お年寄の人まで来て楽しんでいると思います。小さな子は、砂遊びをよくしています。手の空いている少し大きな子は、小さな子と一緒に遊んだりしています。大人の人は、むずかしいボードゲームなどもしています。

ボードゲーム会では、大人も子どももみんな一緒に遊んでいて、大人の人が持っているボードゲームを持ってきてくれたりします。だから、ゆめひろに置いていないボードゲームができて、とても楽しいです。ボードゲームは時間がかかるものが多いので、あ、という間に時間が過ぎてしまいます。一度買ったボードゲームは次に買えないことが多いそうです。プレイパークでは、プレイリーダーのはるはるさん、ボードゲーム会では、みずさんという大人の人がいて、いろいろなことを教えてくれます。二人ともゝああしろ」「こうしろ」など指示することがありません。危険なことも、自分たちで考えて遊びます。小さなケガをすることもあるけど、とても楽しいです。

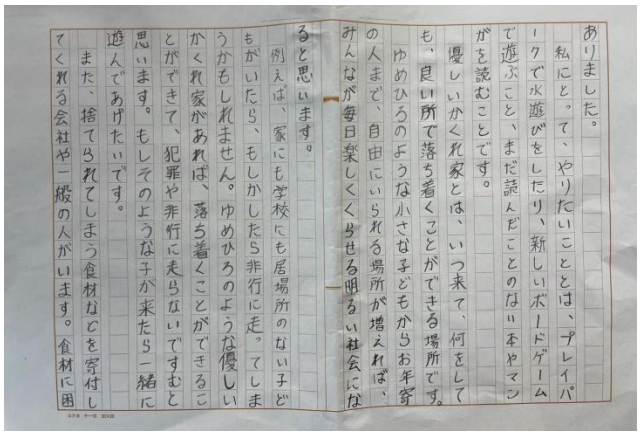
ゆめひろのパンフレットを見ると「ゆめひろはみんなの『やりたい』をおうえんします。」と書いてありました。また「末広商店街の路地うらにある『ゆめひろ』だからこそ『優しいかくれ家』にもなれると思うのです。」とも





っている人を助けたいと考えて寄付をしてくれています。食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」を減らして、コロナ下で困っている人の手助けをしたいです。

私はゆめひろのような助け合いの心を大切にすれば、犯罪や非行のない明るい社会になると思います。



ありました。

私にとって、やりたいこととは、プレイパークで水遊びをしたり、新しいボードゲームで遊ぶこと、まだ読んだことのない本やマンガを読むことです。

優しいかくれ家とは、いつ来て、何をしても、良い所で落ち着くことができる場所です。

ゆめひろのような小さな子どもから、お年寄の人まで、自由にいられる場所が増えれば、みんなが毎日楽しくくらせる明るい社会になると思います。

例えば、家にも学校にも居場所のない子どもがいたら、もしかしたら非行に走ってしまうかもしれません。ゆめひろのような優しいかくれ家があれば、落ち着くことができることができて、犯罪や非行に走らないですむと思います。もしそのような子が来たら一緒に遊んであげたいです。

また、捨てられてしまう食材などを寄付してくれる会社や一般の人がいます。食材に困

自主活動の具体については、ゆめひろプレイパークに関わって、8月に予定していた夏祭に積極的にアイデアを出してくれた女の子二人が、夏祭りの中止にめげず、どうしてもやりたいと、ゆめひろスタッフと相談しながら、自ら仲間を募り、さらに高校生や大人ボランティアの協力を得ながら、手作りで秋祭を実現した。

平日の放課後に2回準備のための集まりを持ったが、中心メンバーは何度もゆめひろに足を運び準備をすすめた。コロナの影響もあり、綿あめ、かき氷の販売、水風船投げは中止となったが、輪投げ、千本釣り、ヨ、もぐらたたきなどの用具を手作りで作成し、ヨーヨー釣りなども準備した。

当日は、子どもたちの口コミの呼びかけにより、50人近い子ども、親子が参加し手作りの秋祭を楽しんだ。

（中心になって頑張った女の子2人）

（手作りのもぐらたたき）

（手作りの輪投げ）

（手作りのゴム鉄砲）

（ヨーヨー釣り）

最後にスタッフ全員で記念撮影）

また昨年は、コロナ禍のなか思うような活動が出来ず、参加者も運営協力者も思うように増やすことが出来なかったが、そんな中でもゆめひろに魅力を感じ日常的に利用してくれる人が増えつつある。今年度に入って、居場所を求めて初めて訪ねてくれる方もいる。また一度ゆめひろから離れたが戻ってきてくれる方もいる。

要因：利用者や参加者を増やすことにばかり目を奪われず、これまで作り上げて来た人間関係を大切にしてきたことにより、本当に必要としてくれる人から愛される居場所となりつつあるのではないかと感じる。
また紹介した作文にあるように、参加者の自主性を尊重し、みんなのやりたいを応援するという姿勢がこのようなよい芽を育んだのではないかと思う。
このような流れを大切にし、苦しい状況が続くなかではあるが、コロナ後につながる人間関係を構築することができたらと考える。

6.失敗したこととその要因：
コロナに怯えるあまり、地域の皆さんや、地域の学校への声掛けが十分に出来なかった。昨年度末より、地元の小中学校や諏訪圏域の関連団体に広く声がけし、利用促してはいるが、まだ十分にゆめひろの存在や末広プロジェクトの活動を周知することが出来ていない。そのため、支援を必要としている子どもや子育て世代と十分につながることが出来ていない。

要因：マスコミなどを使った広告や宣伝よりも、口コミによる評判の広がりが一番大切なことは分かっているが、コロナ禍のなか、なかなか拡大していかない。それでも、「コロナのために、どこにもいけなくなってしまい、家に閉じこもってばかりいたけれど、紹介されてここに来てみてよかった」と言ってくださる高齢者の方もいることから、地道な広報活動を今後も続けていきたい。

7.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案：

① 利用者の拡大

・駐車場がないことから、歩いて来られる地域の住民、学校等への働きかけを強める（回覧板を利用した「お便り」の回覧、地域情報誌の活用などだけでなく、ちらし等を持って地域を回り、じっくりと話をし理解を得ていく活動をしていく）。

・地元商店との連携を強める（地元商店街の行事参加、手芸、革細工、絵画など地元商店と連携したイベント開催、地元商店も参加するマルシェ開催、地元飲食店と連携した食品の提供など）

・子育て世代を対象としたイベント等を実施する（NPO子ども文化ステーション、NPOちゃいるどふっどなどと連携して）

・学習支援、子ども食堂の利用拡大のため、小中学生とその保護者への働きかけを強める（季節ごとの無料補習、学校での案内の掲示、地域情報誌の活用など）

・当初想定していた高校生の活動の場としての利用が少ないことから、あらためて高校生への働きかけを強める（学校への案内の掲示など）

② 支援者の拡大

・コロナ禍のなか、支援者を拡大する取り組みになかなか踏み出せずにいたが、長野県みらい基金より、マンスリー・サポートの仕組みを作ってくれたことをきっかけとして、支援者拡大に積極的に取り組みたい。

③ 運営体制の見直し（中核となるスタッフやボランティアの方との関係は構築できたので、そこを起点に活動の理解者、協力者を増やしていく）

④ 子ども支援（学習支援、子ども食堂）における諏訪市との連携

・諏訪市のあゆみステーションと連携し、市の事業の一部を受託するなどして、本当に支援を必要とする子どもや家庭とのかかわりを構築する

⑤ 地元幼・保・小・中学校との連携

・放課後にいったん帰宅しないと「ゆめひろ」に遊びに来られない、学区外だと保護者同伴でないとゆめひろに来られないという、地元小学校のルールは基本的に変わっておらず、放課後小学生がゆめひろに集うという光景は未だに生まれていない。

・そんななか、ボードゲーム部に参加した小学生が連日放課後にやって来て、ひとりで読書を過ごすという姿がみられ、またプレイパークに参加した近所の幼稚園児が連日保護者と共にやってきて、おもちゃで遊ぶと言う光景がみられた。

・どちらもオミクロン株のまん延により途絶えてしまったが、コロナ禍が落ち着いたあとには、ふたたび利用してもらえるよう関係を維持していきたい。

⑥ 多世代交流の場としての発展

・シニア世代の居場所としての可能性は見えてきたので、シニア世代がボランティアとして子ども、子育て世代に関わっていく機会を、イベント等を通じて増やしていく

・学習支援などを通じて、高校生、大学生が小学生に関わっていく機会を、イベント等を通じて増やしていく

2021年利用状況

		４月	５月	６月	７月	８月	９月
	開館日数	**23**	**25**	**25**	**24**	**26**	**28**
	1日平均	**10.8**	**12.2**	**13.3**	**15.4**	**14.2**	**14.4**
	（実人数）	**(98)**	**(93)**	**(95)**	**(105)**	**(105)**	**(126)**
学習支援	小学生	18	15	17	10	35	18
	（実人数）	(5)	(5)	(6)	(6)	(7)	(5)
	中学生	6	5	6	7	14	8
	（実人数）	(2)	(2)	(2)	(2)	(3)	(2)
	高校生（ボランティア）	8	7	5	15	20	10
	（実人数）	(5)	(4)	(4)	(6)	(4)	(2)
フリースペース	未就学児	1	1	1	9	2	4
		(1)	(1)	(1)	(4)	(2)	(3)
	小学生	26	22	20	52	38	62
		(13)	(10)	(10)	(20)	(15)	(30)
	中学生	2	2	4	3	4	5
		(1)	(1)	(1)	(1)	(3)	(1)
	高校生	23	24	36	35	15	20
		(10)	(10)	(15)	(15)	(6)	(10)
	専門学校・大学	12	0	0	5	13	4
		(6)	(　)	(　)	(2)	(5)	(3)
	大人（ボランティア・講師・役員含む）	164	228	244	233	208	259
		(60)	(60)	(60)	(60)	(60)	(70)
		10月	11月	12月	1月	２月	３月
	開館日数	**29**	**29**	**25**	**24**	**25**	**27**
	1日平均	**11.5**	**11.7**	**13.8**	**11.3**	**11.8**	**14**
	（実人数）	**（108）**	**（106）**	**（107）**	**(93)**	**（78）**	**（93）**
学習支援	小学生	13	11	31	21	22	34
	（実人数）	(3)	(4)	(14)	(14)	(4)	(10)
	中学生	8	9	19	17	12	10
	（実人数）	(3)	(4)	(4)	(4)	(3)	(3)
	高校生（ボランティア）	7	3	11	0	2	14
	（実人数）	(2)	(1)	(2)	(0)	(1)	(4)

フリースペース	未就学児	8	0	13	0	0	5
		(3)	(0)	(3)	(0)	(0)	(3)
	小学生	47	28	41	20	8	14
		(20)	(15)	(15)	(10)	(4)	(6)
	中学生	5	1	10	14	1	7
		(1)	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)
	高校生	8	20	13	5	8	4
		(5)	(10)	(7)	(2)	(4)	(3)
	専門学校・大学	4	4	1	2	1	5
		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(3)
	大人（ボランティア・講師・役員含む）	243	253	208	201	223	273
		(70)	(70)	(60)	(60)	(60)	(60)

＊フリースペース利用の実数は、役員20名、固定利用10名、ボランティア5名以外に、毎月20名～30名は利用者があると想定して出した概数です。

＊コロナの影響で4月19日から5月5日を対外的には臨時休館としたが、学習支援は実施し、来客のあった場合も対応したので、ここでは開館扱いとした。

＊コロナの影響で8月と、12月～2月のいくつかのイベントを中止としたが、開館は継続した。

2021年度　子ども第三の居場所　完了報告書

報告日付：2022年３月31日
事業ID: 2020557724
事業名：「子ども第三の居場所」への助成・運営支援
団体名：特定非営利活動法人Hug
代表者名：　篠田　阿依

1.事業内容
①学習支援（個別の支援、フリースクール、こどもカフェ（こども食堂）での宿題支援）
②生活支援（若者の就労支援、ママカフェ）
③食事支援（多世代交流カフェ・こどもカフェ（こども食堂）・地域と連携した食材配布活動）

2.契約時事業目標の進捗状況：
【助成契約書記載の目標】
④　学習支援
　４、個別の支援・・・週５日実施。１日５～20名利用。
　５、フリースクールでの多様な学びの場の支援・・・１日5～10名利用。
　６、こどもカフェ（こども食堂）での無料の学習支援・・・１回約5人程度利用。
⑤　生活支援
　３、相談支援・・・随時実施。
　４、若者の就労支援・・・カフェでの接客、調理補助、清掃などをサポートしている。
　５、ママカフェ・・・保護者の方と協働で実施。
⑥　　食事支援
　４、日中の「多世代交流カフェ」・・・幅広い世代に食事と居場所を提供。
　５、夜の「こどもカフェ（こども食堂）」・・・週１日実施。（新型コロナウイルス感染予防のため、食事はお弁当配布。）子どもたちへの居場所の提供及び宿題支援も実施。
　６、地域と連携した食材配布活動・・・地域の有志の会と連携して、地域からの食材募集及び子育て家庭への食材配布を実施。

【目標の進捗状況】
④　の進捗状況・・・小学生対象の「宿題サポート」は15名（１年生１名、３年生４名、４年生１名、５年生3名、６年生6名）の登録がある。不登校や主に中学生対象の「個別学習サポート」は26名（小学生2名、中学１年生9名、中学2年生6名、中学3年生9名）の登録がある。今年度５月より開始した「フリースクール」は、12名（小学４年生1名、中学１年生１名、２年生7名、３年生3名）の登録がある。
学習サポートボランティアの方と共に保護者面談をおこない、本人の願いや得意不得意、保護者の願いを確認し、取り組む目標を１人ずつ決定している。宿題サポートは週３日、個別サポートは週５日実施している。フリースクールは、登校日に準じて週５日実施し、教育委員会との連携で、生徒指導専門員の方がHugに常駐し、学校との連携業務や、町の公用車で生徒の送迎なども担ってくださっている。学校の出席扱いとして認められていることもあり、利用者数が大きく増えている。
「こどもカフェ（こども食堂）での宿題支援」は、毎週水曜日の夜にこどもカフェ（こども食堂）を利用する小・中学生（毎回約5名）を対象に、松川高校ボランティア部の生徒や地域のボランティアの方と共に、宿題などのサポートをしている。

図1. 小学生対象の宿題サポート

図2. フリースクールでの活動

図3. 宿題サポート　クリスマス会

⑤ の進捗状況・・・カフェやこどもカフェで随時実施している。保護者からの相談が多く、公式ラインや電話、メールなどで日々対応している。「若者の就労支援」では、3名（いずれも20歳～21歳）が、カフェの接客や清掃に取り組んでいる。それぞれの得意分野を生かし、ソーシャルスキルやライフスキルが身につけられるよう、声掛けをしている。いずれも、教育委員会や学校と連携し、横に繋がることで解決を目指している。1人1人の将来の自立に向けて、Hugとしてどんな役割分担ができるか、情報共有をおこなっている。

「ママカフェ」は、不登校の小・中学生を持つ保護者からの要望を受けて開催している。4月の開催時には、保護者8名が参加し、不登校をテーマに、お茶をしながら悩みを相談したり、お互いに質問しあったり、よい雰囲気で話すことができた。8月の開催時には6名の保護者が参加し、「就労」や「障害手帳や運転免許の取得」にテーマを絞り、打ち解けた雰囲気で話ができた。（それ以降はコロナ禍により開催できていない。）

図4. 若者の就労支援
（清掃、カフェの調理補助、接客）

⑥ の進捗状況・・・「多世代交流カフェ」では、感染症対策の徹底のため、「完全予約制」で昼食を提供している。1日平均5名程度の利用がある。特に地域の高齢者や、乳幼児連れの子育て世代の利用が多く、居場所となっている。また、テイクアウトやお弁当の販売では、松川町社会福祉協議会や企業からの委託などで、1日20食程度を販売している。

「こどもカフェ（こども食堂）」では、昨年より引き続き、お弁当配布の形で実施している。学習支援としての居場所の開放もしており、参加者は少ないが、継続して利用する子どもたちがいる。コロナ禍によりお弁当の利用数が増えており、現在は50～70食程度の利用がある。

「地域と連携した食材配布活動」は、新型コロナウイルスの流行により、昨年新たに地域の中で立ち上がった「地域で食材を循環させる会」と連携させて頂き活動している。松川町社会福祉協議会が事務局となり、地域の有志の方々や松川高校ボランティア部の生徒たちと、食材募集（フードドライブ）を昨年7月から続けている。食材配布（フードパントリー）を毎月１回おこない、必要としている家庭（約25世帯）へ食材を配布するお手伝いをしている。２月現在で18回の配布を実施した。

図5. こどもカフェ（こども食堂）のお弁当配布

図6 .地域と連携した食材配布活動（仕分け作業）

3.事業実施によって得られた成果：
①の「学習支援」では、１人１人の特性に合った学び方や環境調整をし、登録者が増えている。
フリースクールでは、将来の自立に向けた多様な学びの場を作るため、積極的に地域とつながり、多くの方の協力のもと、様々な経験の場を提供している。（職場見学、調理、創作活動、スポーツなど）毎日通うことで学習への意欲が出てきた生徒もおり、教科学習にも力を入れ始めている。
②の「生活支援」では、ママカフェや相談支援を通し、保護者のネットワークが深まる一助となっている。
③の「食事支援」では、こどもカフェでの弁当配布が定着してきて、仕事帰りの子育て世代の方や多子家庭の方などのお弁当の利用が増えたり、子どもたちが松川高校ボランティア部の生徒と楽しそうに遊びや宿題をしたりなど、「続ける」ことの必要性を感じている。

4.成功したこととその要因
①学習支援：多くのボランティアスタッフの方の存在及び、行政との連携

要因：「宿題サポート」には6名、「個別サポート」には9名、「フリースクール」には6名の教職経験者を中心とするボランティアスタッフの方々が関わってくれており、計16名の学習ボランティア登録がある。それぞれのチームで定期的にミーティングを開催し、改善点や情報共有などを行っている。経験や専門性を生かして頂く中で、子ども達１人１人に確実に心の居場所が作れるよう、共通理解を図っている。
また、10月より、松川町教育委員会から生徒指導専門員がフリースクールに常駐し、学校や教育委員会と更に密に連携をとりながら、不登校の児童・生徒の学びの場の保障について一緒に考え、動いてくださる姿勢があることが大変ありがたい。同時に10月より、フリースクールの利用料分を、町が委託の形で助成を出してくださることが決定し、運営の大きな助けとなっている。

②生活支援：松川町役場のこども課や保健福祉課とも連携しながら、必要な情報提供

要因: 青年期の就労や、高校生以上の不登校や引きこもりなどについては課題もあるが、ママカフェなどを通して保護者が相談しやすい機会を作っている。また、Hugの現状について、行政の保健士さんや心理士さんにも把握して頂き、横につながってサポートをする体制ができつつある。

⑦ 食事支援:新型コロナウイルスの感染予防対策を徹底しながらも、できることを継続している。

要因:「多世代交流カフェ」では、コロナ禍で完全予約制となっても、乳幼児連れの子育て世代の利用が多い。コロナ禍で行き場所がなくなってしまう子育て世代にとって、居場所としての必要性を改めて感じている。また、こどもカフェ(こども食堂)では、対象を絞り、お弁当配布の形にした事で利用者は減ったが、続けていくことが大切だと感じている。町内だけでなく、南信州地域振興局や「南信州こども応援プラットフォーム」や「まいさぽ飯田」などの繋がりからもこどもカフェの食材提供や物資提供を頂くことが増え、大変ありがたい。地域と連携した食材配布についても、地元企業や団体、個人など、食材提供の連携先がさらに拡大しており、「地域で食材を循環させる会」の活動を共に支えていきたい。

5.失敗したこととその要因:
① 学習支援:運営費(人件費)の確保と、学校との連携
要因:登録数が増えたことや町からの委託が始まったことで、開設当初と比べると自立の見通しは立ってきたが、まだ厳しい状況。また、「出席」だけでなく「評価」の面や、授業内容の共有や進路のサポートなど、学校との連携もまだ不十分。

② 生活支援:コロナ禍により、人が集まることが難しい状況が続いている
要因:外出自粛等により孤立が進んでしまうことが心配。就労サポートの方向性については、就労支援機関などとの連携が不十分。

⑦ 食事支援:お弁当販売やテイクアウトのSNS等の発信が不十分
要因:コロナ禍とうまく付き合いながら、感染予防の徹底と共に、必要とされることを積極的に動いていきたい。店内飲食の利用数を拡大することが現状では難しい。

6.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案:
カフェや学習サポートなど、収益事業は確立しつつあるが、運営費の確保はいまだ大きな課題である。支出の見直しと、助成金や寄付金の獲得を目指し、運営を継続させていく。
厳しい状況がまだ続きそうだが、行政や企業、地域の方々と横に繋がりつづけることで、家庭の孤立を少しでも防げるよう、Hugとしての役割分担を更に明確にしていきたい。
コロナ禍もあってか、学習支援のニーズは年々増えている。スタッフ間で対応の差がなるべく出ないよう、共通理解のもとで子どもたちを見守り、適切なサポートができるよう、スタッフ研修を実施していく。
フリースクールの登録数が大きく増えており、子どもたちの多様な学びの場の必要性と重要性を感じている。子どもたちを地域全体で見守り、育てていける仕組み作りを、地域連携の中で開拓していく。
また、ホームページ作成や子どもたちへのICT学習など、専門人材の確保も課題。募集を継続する。

2021年度　利用状況

NPO法人Hug

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
	開館日数	**25**	**23**	**25**	**26**	**24**	**23**	**25**	**25**	**24**	**22**	**23**	**23**
	1日平均	**14**	**18.5**	**23**	**19.1**	**22.5**	**28.1**	**25.8**	**29.1**	**29.7**	**26.7**	**24.3**	**27.3**
	（実人数）	**(4.8)**	**(7.3)**	**(6.0)**	**(7.4)**	**(7.1)**	**(6.9)**	**(6.1)**	**(7.6)**	**(7.3)**	**(5.8)**	**(4.9)**	**(7.1)**
学習支援	小学生	98	80	121	100	90	99	79	66	69	50	60	83
	（実人数）	(13)	(16)	(16)	(16)	(15)	(16)	(16)	(15)	(17)	(15)	(15)	(15)
	中学生	64	103	154	119	121	157	184	211	199	198	188	134
	（実人数）	(14)	(20)	(21)	(22)	(23)	(26)	(29)	(32)	(29)	(31)	(29)	(25)
	高校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	（実人数）	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
カフェ・こどもカフェ	未就学児	22	40	37	53	37	26	21	47	36	10	10	37
		(16)	(32)	(29)	(45)	(37)	(26)	(21)	(47)	(36)	(10)	(10)	(37)
	小学生	8	8	10	11	20	25	28	10	16	5	11	34
		(5)	(5)	(6)	(5)	(15)	(15)	(10)	(8)	(10)	(5)	(8)	(10)
	中学生	5	5	6	7	25	15	23	46	40	48	54	30
		(5)	(5)	(6)	(7)	(10)	(8)	(8)	(8)	(12)	(8)	(8)	(8)
	高校生	8	6	8	12	8	2	8	8	6	0	0	15
		(8)	(6)	(8)	(12)	(8)	(2)	(8)	(8)	(6)	(0)	(0)	(15)
	専門学校・大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(5)
	大人（ボランティア・講師・	146	184	241	196	240	324	302	340	347	277	237	289
		(60)	(84)	(66)	(85)	(64)	(66)	(62)	(71)	(65)	(58)	(45)	(50)